

# 石川氏改易ガイド

## 石川氏はなぜ改易されたか

慶長18年(1613)10月石川康長は大久保長安との連座などの理由で突然改易され豊後佐伯の毛利氏に大名預けとなった。弟康勝・同半三郎も所領召し上げとなった。

康長が大久保長安と交渉を持つようになるのは関ヶ原の戦い直前の8月頃からである。関ヶ原の戦いは東軍に属し、関ヶ原の戦い後は大久保長安直属の有力大名の一人となり、康長の娘を長安の長子藤三郎に嫁がせ姻戚関係を結んだ。

### 1 改易の理由として伝えられていること

#### (1) 大久保長安と結んで新田を開発しながら領地としての申告を怠った罪。

- ・「近年大久保石見(長安)を語らい、知行あい隠すの由にて改易」(当代記)
- ・「近年大久保石見守と懇切にて、隠田数多これあるにつき、配流」(慶長年録)

#### (2) 幕府の許しを得ずして分不相応な城地の造成、民家や寺院の破壊、人々の酷使をした。

- ・「かねて石見守と縁を結び、交わり親しかりしうえ、城普請のときも公命を得ずして私になす事多し、領内の在家・寺院を取り壊し、人民を悩まし、堂塔の九輪を取りて茶釜となし、木石を掠め取るの類 すくなからず」(信府統記)

#### (3) 家中騒動を治めることが出来なかった。

- ・家老渡辺<sup>きんない</sup>内と同職の伴<sup>ばん</sup>三左衛門の二人の間に入りがあり、家中が二つに分かれて騒動がありこれをおさめる事が出来なかった。

### 2 大久保長安という人(1545~1613・ 69歳)

猿楽衆大蔵太夫の三男として生まれ、後武田家に仕える。武田氏滅亡後1582年家康に登用され大久保忠隣(ただちか)の庇護をうける。

家康関東入国後八王子に陣屋を設け代官として検地・知行割を担当。関ヶ原の戦いでは小荷駄<sup>こにだ</sup>奉行<sup>ぶぎょう</sup>。その後家康の側近となり関東・甲斐・信濃・美濃・越後・佐渡・伊豆・近江・石見へと支配領域を拡大し120万石相当の権力者に成長した。

産業面では佐渡金山の増産・木曾の林業開発等に驚異的な成果を上げた。

また、一里塚や伝馬制<sup>てんませい</sup>の設定による交通網を整備した。江戸・駿府・名古屋城の築城工事の資材調達に才腕を振るった。



大久保長安像

慶長18年4月25日中風にて69歳で没す。

没後生前の金銀隠匿・幕府転覆の陰謀発覚などの理由により遺子7人が死罪に処せられ、関係した大名、代官が連座して失脚した。真相は明らかになっていない。

結局、さしたる軍功もない長安が家康の側近にあつて権勢をふるい、巨大な資産と領主的権力とを手にしたことに対する強い反対勢力による反発の結果と見られている。

### 3 歴史研究者はどのように見ているか

歴史学者北島正元氏は大久保長安事件の歴史的背景を幕府内における大久保忠隣と本多政信・正純父子の対立から派生したことと見ている。

大久保忠隣は若くして家康に仕え文禄2年からは秀忠に附属し家老となり、文禄3年には小田原6万5000石を領した。慶長10年(1605)秀忠が将軍職に就くと老中となり権勢を振るつたが、慶長19年正月、上洛中に改易された。この背景には本多正信との不和があった。



将軍秀忠

大久保忠隣は家康の世継ぎに秀忠を推し、本多正信は(結城)秀康を支持して対立した。二代秀忠が将軍に就任後2人はともに老中になった。

慶長14年(1609)本多政信の子の正純の家臣岡本大八は切支丹大名有馬晴信が長崎港外ポルトガル船を焼き討ちしたことに対し、大八はこの事件の恩賞として当時鍋島領であった有馬氏の旧領肥前藤津・彼杵・杵島三郡を賜るように斡旋するとして晴信から多額の賄賂を取った。慶長17年(1612)2月23日大久保長安邸で対決となり大八の非分が明らかとなり翌月駿府安倍川原において火刑に処せられた。これは本多側にとっては大きな汚点となった。

慶長18年(1613)4月25日大久保長安が駿府で没すると、大久保長安事件が起こった。大久保長安は大久保忠隣の家人で抜群の出世をし、諸国の鉱山奉行となり幕府財政に寄与したが私財を増やし、豪奢な私生活を営んだとして、全財産は没収され、遺子は死罪となった。この事件の背後に本多政信がいたとされている。

同年12月馬場八左衛門という武士が目安を幕府に上申し長安事件に関連して大久保忠隣が謀反を企んでいたと密告した。これを本多政信が取り上げ、家康に讒言し、弁明も入れられず忠隣は改易となった。その後、大久保派の酒井忠世・土井利勝・井上正就により、本多正純が元和8年(1622)改易された。「日頃ご奉公悪しく」との理由である。秀忠暗殺計画である正純の居城宇都宮釣り天井事件は俗説であるが、秀忠は日光社参の帰途宇都宮に宿泊せず、通過し側近に宇都宮城を検分させている。疑いをもっていたことは確かである。

このように江戸幕府成立期の権力闘争の具に大久保長安事件は利用され、石川氏は大久保長安事件に連座して改易となったのである。改易の理由は後から作られたと見るべきであろう。